



KPU NEWS



輝ける薬学の未来に向けて

学長 乾 賢一

この度、思いがけなくも京都薬科大学学長に選ばれ、4月1日付で着任致しました。本学に在籍される全ての職員と学生の皆様、そしてご父母の皆様に紙面をお借りしてご挨拶申し上げます。また、夢と希望に溢れる新入生の皆さん、ご入学誠にありがとうございます。これまでの受験をめぐる努力に敬意を表したいと思います。

さて、薬学教育6年制は2006年にスタートして以来早5年目を迎え、これまで各大学において多くの苦難を伴いながらも体制整備が進められてきました。いよいよ本年5月からは、懸案の病院、薬局での長期実務実習が始まります。この教育改革では、豊かな人間性、科学する心を身につけた、質の高い薬剤師の養成を目指し、そして新たに誕生する薬剤師には、医療、製薬産業、大学、行政などでの活躍が期待されています。しかし、当初の目標からすると薬学教育改革は、衆議院、参議院において全会一致で決められたにも拘らず、厳しい経済情勢の中でその進捗は必ずしも順調とは言えません。幸いにも本学は、

これまでに培われた伝統と実績を基盤にし、安定した財務基盤に支えられ、6年制の理念に沿った躬行プラン（中期計画）に示されるごとく方向性は定まっており、ハード面の整備とソフト面の充実が進んでいます。

大学の社会的使命は、言うまでもなく教育と研究にあります。本学の建学の精神に則り、薬の専門家としての質の高い薬剤師を養成し、高度化・多様化が進む医療環境の中で、真に社会に貢献する人材育成が求められています。そのためには、課題発見、課題解決型の教育に力を注ぎつつ、Science（科学）、Art（技術）、Humanity（人間性）のバランスのとれた人材育成を強力に進める必要があります。また学術研究の推進とともに、研究者の養成および高度の専門的能力を有する人材（ファーマシスト・サイエンティスト）を養成し、変革する医療や製薬産業界に新たな活力となる多様な人材を供給することが重要と考えます。一方、研究につきましても、薬学教育改革に伴って新たな展開が期待されます。

CONTENTS

輝ける薬学の未来に向けて	学長 乾 賢一	1~2	2010年度大学院薬学研究科薬学専攻博士後期課程	
大学院の多様化	研究科長 竹内孝治	2	(冬季募集) 入学選考結果	10
考えることこそ将来の糧	教務部長 後藤直正	2~3	受賞・掲載	10
ご入学おめでとうございます	学生部長 浜崎 博	3	Library News	11
6年制学生の進路支援	進路支援部長 山本 昌	3~4	クラブだより	12
学長退任のご挨拶		4~5	お知らせ	13~16
定年退職のご挨拶		5~6	京薬会だより	16
昇任のご挨拶		6~7	京都薬科大学奨学寄附金募集について	17
卒業生からのメッセージ		7	京都薬科大学奨学寄附金ご芳名録	18~19
特集 はじめての薬学共用試験を終えて		8~9	新校舎「躬行館」が竣工しました	20
2010年度入学試験結果について		10		

すなわち、基礎薬学と医療薬学を充実させながら連携・統合を図り、総合科学としての薬学研究を推進し、基礎研究のみならず創薬、薬物治療への橋渡しとなる応用研究を発展させることができると確信します。また、本学の持つ知的資源を集約し、地域社会や製薬産業界との連携強化、人的交流の推進を図り、大学の活性化や社会貢献に繋がりたいと考えています。

今、我が国の薬系大学は、国公立を問わず激動の変革期にあります。本学の輝かしい伝統と実績を踏襲し発展させつつ、対話を重視しながら長期的展望に立って舵を取り、職員、学生を含む全ての構成員にとって、夢のある元気の出る大学運営を目指したいと考えています。輝ける薬学の未来のために、一丸となって特徴ある教育・研究活動を展開し、本学から全国に向けて、世界に向けて情報発信をしようではありませんか。

職員、学生、ご父母の皆様の忌憚のないご意見とご協力をお願い申し上げます。



大学院の多様化

研究科長 教授 竹内 孝治

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。将来に大きな夢と希望を持って京都薬科大学に入学されてきたと思います。本学の目標は、建学精神である「愛学躬行」を忠実に受け継ぎながら、臨床薬学教育と創薬科学研究を通じて、次世代を担う薬剤師および薬学研究者を育成することです。大学院では、本年4月から他大学も含めた4年制薬学および他学部の卒業生を対象とした「薬科学専攻」博士前期課程が新たに始まります。大学院教育も皆さん方の夢の実現にとっては重要であり、我々教員はそのために出来る限り協力します。

この機会に、今後の大学院について少し説明したいと思います。現行の2専攻「薬学専攻および臨床薬学専攻」を有する大学院には、平成21年度の入学生が現在修士2年次生で在籍していますが、昨年度からこれらの専攻の募集を停止し、新たに「薬科学専攻」での募集が始まりました。それゆえ、今年は従来の薬学専攻、臨床薬学専攻に加えて、薬科学専攻が混在するという複雑な状態になっています。平成24年には薬科学専攻博士後期課程および6年制学部を基礎とする4年制大学院である薬学専攻博士課程も発足します。最近、文部科学省は薬学系大学院のあり方に関する報告をまとめており、「薬学専攻の大学院では“臨床薬学を中心とした高度・専門的な研究能力を有する薬剤師の養成”、薬科学専攻の大学院

では“創薬科学を中心とした薬学領域における研究者の養成”に重点を置くもの」としています。本学はこれらの大学院を併設するため、今後、両大学院における教育の違いを明確にするための方策を練る必要があります。

大学院では、書物（理論）と体験（実践）の両者を重視した教育を通じて、“論理的な思考力”、“止むなき探究心”、“独創的な発想力”などを身につけた学生を養成します。また、大学院の将来を考えた場合、国際化の流れは当然であり、海外からの留学生や研究生の受け入れを拡充したいと思っています。そのための重要な課題は英語教育であり、次年度からでも英語による論文作成能力とプレゼンテーション能力を身に付けるために、大学院生を対象とした「科学技術英語」や「スペシャル・イングリッシュ・レッスン」を開講し、学生の英語コミュニケーション能力向上を目指します。大学院での教育研究を通じて、これらの要素を十分に身につけ、是非とも厳しい競争社会を勝ち抜いて貰いたいと思います。

ところで、「元気な商店街」には、必ず3種類の人間がいるそうです。それは、「よそ者」と「若者」と「バカ者」です。よそ者には、その商店街の良いところと悪いところが見える。若者がいれば若い感覚を活かせる。ばか者と言われるような、ひたすら突っ走る熱血漢がいれば、無理だと思えるようなことも実現できる。この話は、そういう人々のパワー、即ち“多様性が産み出すパワー”の凄さを比喩したものです。生態系でも多様なものほど発展しています。学術の世界でも同様であり、大学院の今後の活性化には“多様性”が求められます。薬学出身者だけでなく、理学、工学、農学などの他学部、および高等専門学校専攻科の出身者などに加えて、国外にも広く志願者を募り、入学者の経歴を多様化し、世界を舞台に活躍出来る人材の育成を目指します。

薬学はライフサイエンスの中心として、大きな夢とロマンを追求することが出来る学問です。6年制薬学を卒業した人も、出来るだけ大学院へ進学することにより、研究能力を備えた医療人、次世代創薬を担う研究者として育てて頂きたいと思います。



考えることこそ将来の糧

教務部長 教授 後藤 直正

新入生のみなさん。受験シーズンが終了して軽やかな気持ちでおられる皆さんにひとつ問題を投げかけたくなります。「大学てえなんでしょう?」「何するところなんでしょう?」ひとそれぞれの考え

を持っておられることと思います。本学に入学された皆さんは、「薬剤師になる」、「製薬企業に入る」、「研究者になる」・・・のように明確な目標を持っておられる方も少なくはないでしょう。このような目的が達成できるように、本学でのカリキュラムは組まれています。でも、今日、手にされたシラバスをパラパラと見てください。色々な科目がありますよね。それらの科目のすべてが薬学と関係があると皆さんはわかりますか？分からないものもあるはずですが、ではなぜ、そのような科目を履修することが必要なのでしょうか？あえて答えはここでは述べませんが、私達教員は薬学を修め、社会で活躍するためには、これらの科目が必要と考えています。さあ、考えてください。授業を受ける前、終わってから、考えてみてください。独りで考えたり、友達と一緒にあったりして考えてください。

このような問題を投げかけたのは、大学に入った皆さんに主体的に考えるという行為を身に付けて欲しいからです。受け身で授業を受けても身に付くのは表面的なものです。なに？なぜ？という能動的意識の連続は皆さんを大きく成長させます。このような努力はすぐには評価されません。しかし、知らず知らずに大きな力となってゆくのです。野球にたとえてみれば、一流選手は素振りを欠かさず、部屋の畳がすり減ったというような話や全体練習が終わったあとにさらに独りで練習するという話はよく聞きますよね。余裕なく試験を受けねばならない受験時代は終わったのです。試験に受かるため、単位をとるため、というような近視眼的行動ではなく、人目につかぬ努力をして欲しい、それが6年間の勉学の成功への道だと思います。もうひとつ、「薬学を学ぶ」ということは当然一番大事なことです。が、「薬学から離れた勉強もしてみよう」という余裕も大学生活には大事なことです。大学の目的は、決して職業訓練ではありません。さきに述べた問題の答えに気づいたときには教えてください。一緒に話しができれば嬉しいことです。

が複雑で面倒だったことは覚えています。入学当初は、田舎の小さな高校出身で知り合いも無く、また内向的な性格のため新しい友達をつくることもせず一人寂しく授業に出て、終わればまっしぐらに下宿に帰る・・・そのような生活をおくっていました。私の生活が変わったのは、やはりクラブ活動でした。同級生の友達が出来て一緒に遊んだり、先輩には怒られ内心では腹を立てても、すこし奢ってもらえば機嫌を直したりと、クラブ活動が日常生活に占める比重は極めて大きかったです。そのような学生生活を4年間続けました。

本学は規模が小さく、入学式直後はいろんなガイダンスがあり、また学生相談員制度（学生7～8名に教員1名）による面談ではクラスのお互いが顔見知りになれます。授業も殆ど必修科目でクラス毎に受講するので、友達をつくる機会にも恵まれていると思います。

近年、クラブ活動やサークル活動に所属する学生数が減少しています。個々にいろんな事情があると思いますが、寂しく思うのは私だけでしょうか。同級生や先輩・後輩と心を一つに同じ目標に向かって突き進むことは、授業以外で得られる人生の大きな財産になるでしょう。

6年制薬学の重要な教育課題に「コミュニケーション」があります。また、将来、就職活動をする場合、クラブ活動歴は大変重要なファクターとして評価されます。就職のためというより皆さんの人生をより豊かにする一つの手段として、是非クラブ活動に参加してください。自己研鑽を積み、そして京都薬科大学を更に元気な大学にしてください。

これから6年間、いろんなことがあるでしょう。楽しいこと、悲しいこと、つらいこと等予想もできないと思います。

学生部・課は、皆さんの6年間の学生生活全てに関わり、お手伝いさせていただく窓口です。

いつでもお越しください。スタッフ一同お待ちしております。



ご入学
おめでとうございます
学生部長 教授 浜崎 博

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんの入学を心から歓迎いたします。大学生活はどのようなものか、そして何をしようかと心待ちにしておられることでしょう。

私の大学入学式は、はるか昔になります。がやはり体育館でおこなわれました。その当時の様子はあまり記憶にありませんが、1年生前期の受講登録手続き



6年制学生の進路支援
進路支援部長

教授 山本 昌

昨年5月より進路支援部長を担当しておりますが、本年度も引き続いて本職を担当することになりましたので、何卒宜しくお願ひ申し上げます。

さて、本学では4年前から6年制となり、いよいよ今年度の後半くらいから6年制学生の一期生が就職活動を開始することになります。ご承知のように、6年制のカリキュラムでは5年次生の間に、各学生が病院

ならびに薬局に約5ヶ月間、実務実習を受けることが決まっており、今までの4年制学生の場合と就職先や採用試験の内容や採用の時期などが大きく変化する可能性があると思われます。

進路支援課では、このような6年制学生の就職を支援するため、1年次生からきめ細かなサポートカリキュラムを組んでおります。具体的には、1年次生では入学直後のオリエンテーション（進路についての概要）、2年次生では卒業後の進路や職種の概要説明、3年次生では自己分析の仕方、エントリーシートの書き方、就職活動でのルールの説明、マナー講座、内定者の講演会、4年次生では各職種のより具体的な説明会、SPI模擬テスト（希望者のみ）の実施、5、6年次生では、個別相談（ヒアリング）、希望職種ごとのセミナー、学内企業セミナーなどを実施することにしていきます。従って、各学生諸君は、これら進路支援のカリキュラムをうまく利用して各自の就職活動に役立てて頂きたいと思っております。またこれらガイダンスの他に進路支援課では、各分野主任の先生とも緊密な連絡を取りながら、就職や進路に関する活動を支援しております。具体的には、求人情報の提供、インターンシップの実施、窓口での個別相談などです。このように、進路支援課には皆さんの就職や進路決定に役立つ多くのサポートシステムがありますので、是非、積極的に進路支援課に足を運んで頂き、希望する就職先の情報収集をしたり、あるいは進路で迷っている時には進路支援課の職員の方々に相談して頂きたいと思っております。

それから冒頭にお話致しました採用の時期に関しては、5年次生の1～3月に実務実習を受ける学生が不利にならないように、日本私立大学団体連合会、日本私立薬科大学協会などが、経団連、主要経済団体、日本製薬団体連合会、日本製薬工業協会などに対して就職、採用活動の早期化を是正するように要望書を既に提出しております。また、進路支援課の職員も各企業の採用担当者に対して採用選考活動の時期を配慮してもらうように個別に要望しております。従いまして、学生諸君は必要以上に不安にならずに5年次までは勉学や実習に励んで頂き、その後しっかりと就職活動をして希望の職種に内定を勝ち取ることを願っております。

学長退任のご挨拶



定年退職を 迎えるにあたって

西野 武志

いつかは通らなければならない道だと思っていましたが、早くもこの3月で定年を迎えることになりました。思い返せば6年間の学生生活、そして職員になってから38年2ヶ月の計44年間京都薬科大学でお世話になり、教育職員、事務職員の方々や多くの学生諸氏に心より厚く御礼申し上げます。特に最後の6年間は学長として、多くの優秀な職員に支えられて薬学部単独では本学と東大、東北大学の3大学しか採択されなかった21世紀COEプログラムや本学の120周年の記念事業の一環として愛学館や躬行館の建設・竣工に立ち会うことができ、さらに薬学6年制のスタートに当初から関与することができました事は、私にとりまして非常に大きな喜びであります。ただ、6年制の最初の学生諸氏を見送ることができなかったのは残念ではありますが、今後の皆さんのご活躍を祈念致しております。

ところで私が大学受験の時に薬学部を選択したのは、化学が好きであったからという理由ではありません。好きでも嫌いでもなく、どちらかといえば苦手であったというのが正直なところかと思っております。大学の1年次では自分がどのような道を選択すればいいのか全く不明のまま悶々として過ごしていました。そして2年次の講義で微生物学に出会うことになりました。故中澤昭三教授の講義を受講した時に、自分が選択すべき道はこれしかないと思う程の感動を覚えました。でもその時は一生をこの学問に浸り切るとは夢々思いませんでした。とにかく卒論研究はこの研究室（分野）でとの思いで、そのためには今受講している微生物学は学年でトップをとるとの気持ちで、日々の講義の予習と復習は欠かさず、試験時には勉強をしなくても良い状態で挑んでいました。そして3年次から微生物学の研究室で卒論研究をスタートすることができました。このような気持ちで研究室を選択したので、入室時に研究室での夏休み、春休み、拘束される時間や将来の就職などは全く考えたことがなく、とにかくこの学問が好きなんだという気持ちでした。それゆえ最近、本学を1年次や2年次で、薬学部に進学してきて、どうしても有機化学が好きになれないので退学を決意したとの理由を聞く度に、まだ早すぎるもっと色々な講義で様々な学問に出会ってから考えて欲しいと切に願っております。私の好きな詩人の一人須永博士（すながひろし）さんの詩に「生きて何をしたらいいのかは、た

くさんの出会いの中から、たくさんの選択の中から自分に合った仕事、夢、愛を見つけて、それを大きく育てていくことです。自分に合うことを見つけることは大変ですが、それを見つければ、すてきな楽しい人生を生きていくことができます。見つけるまでの辛抱、追求、挑戦です。必ずあなたにふさわしい道が人生があります。」との言葉がありますが、この言葉を在学生や新入生の皆さんにお送りしたいと思います。

中国の言葉に「人生は白駒（はつく）の隙（げき）を過（す）ぐるが如し」がありますが、これは「光陰矢のごとし（光陰流水のごとしとも言う）」と同じ意味で、人生は、戸の隙間から白馬が走りすぎるのを見るように、ほんの一瞬のことにすぎないということになります。本学での44年間の生活を振り返っても正に同じ思いです。したがって、「時は金なり」とか「朝に道を聞かば、夕べに死すとも可なり」や坂村真民の詩「大切なのは かってでもなく これからでもない 一呼吸 一呼吸の 今である — 木々を見よ 花々を見よ すべては今日 只今に生きる」という言葉にもあるように、日々の生活の中で時間を無駄に過ごすことへの恐れを持たなければならないということになるかと思えます。先日、京都駅周辺を散策していた時に、お寺の標語として「2度と会うことができない今日の日」がありました。これも同じことを意味していると思えます。人生は有限であることを絶えず認識し、日々の努力を怠ることなく、教育職員、事務職員や学生の皆さんが、今後ますますご健勝で、ご活躍され、幸せな生活を過ごされることを心よりお祈り申し上げ、さらに京都薬科大学がさらなる発展を遂げることを祈願しております。最後に皆さんとの出会いに感謝し、定年の挨拶とさせていただきます。長い間ありがとうございました。

定年退職のご挨拶



創薬科学系
薬品製造学分野
教授 野出 學

今年も入学シーズンがやって参りましたが、新入生の皆さんとは入れ替わりに私は本学を一足先に退職することになりました。本学に奉職してから丁度20年になりますが、今年入学される殆どの方は私が本学に来てから生まれた人でその成長の速さと歳月の速さには驚きです。大学の建物も躬行館の完成で一変し以前とは隔世の感がしますが、定年まで大過なく勤め上げられた事は私の細やかな誇りでもあり

ます。この間、本学職員の方々にはご指導・ご厚誼を頂き心より御礼申し上げます。

本学に赴任した当初の薬品製造学教室は旧5号館（臨床薬学教育センター横の駐輪場付近）の2階でした。毎年この時期になると教授室の窓越しに満開の染井吉野の老木に心を和ませて貰っていました。前任地での研究に比べ、本学では大勢の学部生との研究でその指導に戸惑ったことや中古のNMR装置の入手で走り回ったことが懐かしく思い出されます。この時、研究室の体制作りに協力して頂いた井上武久先生（当時、薬品製造学教室に配属）に感謝しています。最初に始めた研究は以前からの不斉反応の展開と生体触媒を用いる反応で、2年目からは西出喜代治先生（現 武庫川女子大学・教授）や修士の学生が加わり一気に研究が加速されました。また、10年後には研究室は南校地に新設された創薬科学フロンティア研究センターの2階に移り、素晴らしい研究環境のもとで教育研究活動ができるようになりました。特に思い出の深い研究は、院生の実験中に発見したタンデム型不斉反応で10年以上関連研究を続けることができました。また、ガラントミン（アルツハイマー病薬）の不斉合成や多連続不斉炭素の構築など、今でも成功した時の感動は忘れられません。このように本学での研究の思い出は尽きませんが、何と言っても本学の研究に対する財政的支援と教員の研究心の高さが学生さんのモチベーションを高める環境になっていることは間違いなくと思います。この本学の伝統である研究力は学生さんにとって就職や卒後の人生にも少なからず良い影響があると思われれます。本年度から大学院生が減少し各分野でも新しい教育研究体制で行うことが余儀なくされますが、本学の伝統が更に充実されることを切に願うものです。

最後に学生の皆さんのご活躍と職員皆様のご健勝をお祈り申し上げます。



生命薬科学系
分子生体制御学分野
教授 大和田 幸嗣

私が京都薬科大学にまいりましたのは、1989年2月、前年に設立された私学薬科大学初の生命薬学研究所の分子生体制御研究部門の助教授としてでした。以来21年間、その初めから中頃にかけては癌蛋白質Srcの細胞増殖、特に細胞周期分裂期と細胞分化シグナル伝達における役割の研究を、また近年は細胞のシグナル伝達の最終場である核における情報処理機構-細胞の運命決定場の構造と機能-についての研究を行ってまいりました。振り返ってみればあつ

という間の年月でしたが、現旧の職員の皆様方、多くの学生諸君に助けられて、無事に勤め上げることが出来ました。皆様に支えられ退職の日を迎えられたことを厚く御礼申し上げます。

研究所では、失敗を恐れず多くの実験が出来たことは大変幸せだったと感謝しております。個性豊かな学生たちと夜遅くまで実験を行って行く中で、私が教えることよりも、彼等から若いパワーをもらい、私自身が学ぶことが多かったことを実感しています。未知への挑戦は多くの失敗を伴いますが、その失敗から学ぶことが出来れば新たな発見へと繋がります。どんな小さな喜びでも、それが発火点となって更なる一步を踏み出す勇気を持つことが出来ます。失敗がなければ反省もなく進歩もありません。失敗を許容する心、そして若いパワーが存在する限り未来への希望があると信じております。

本学を去るに当たり、6年間の大学生活で沢山の専門知識、技能、態度を身につけなければならない学生の皆さんに贈る言葉があります。戦後間もない頃、アメリカから日本に赴任されたある教育者が学生達に語った言葉です。「自立しなさい、考えながら生きなさい、そして互いに助け合いなさい（原文は、Be independent. Be intelligent. Be cooperative.）」。薬剤師国家試験合格は人生の一里塚に過ぎません。予測不可能な10年後、20年後の未来において、自立できるための太く長い根っこを作る努力を日々忘れないでください。

最後に、京都薬科大学の皆様のご健勝とご発展とを心からお祈り申し上げます。ありがとうございました。

昇任のご挨拶



薬学教育系
教育研究総合センター
情報処理教育研究センター
教授 深田 守

本年1月1日付で情報処理教育研究センターの教授を拝命しました。私は昭和47年に京都大学理学部を卒業後、本学物理学教室助手として着任し、平成9年度現センターに配置換となりました。数えてみますと、私より古くから本学に勤務する職員は、もう数えるほどもおられず、ずいぶん長くお世話になっているものとあらためて実感しています。大学の雰囲気も勤め始めた頃とはずいぶん変わりました。着任当時は入学定員が240名で、南校舎もなくて、学生と職員の距離も今より近かったように思います。また、冷房がなかったこともあるでしょうが、職員はかなりゆっくりした夏休みをとるなど、のんびりと

した時代でした。大学運営面では、教授会以外に教員協議会というものがあり、教育に関する重要な方針はそこで決められていました。私も助手会の役員として、その会議に参加したこともありました。職員どうしは皆が知り合いで、現在のように互いにはほとんど話をしたこともない人が多いという状況とは隔世の感があります。その後、研究を優先するという大学方針が打ち出され、意思決定を速やかにする目的でしょうが、教員協議会も廃止されました。現在では、研究大学としての名声を獲得し、大学の進む道としては成功したと思います。しかし、改革というものは痛みを伴うことが常々でありますように、本学でも切り捨ててきたものもあるのではないのでしょうか。

テレビで、「龍馬伝」や「坂の上の雲」、あるいは「不毛地帯」など、明治維新や敗戦後の混乱期の日本を時代背景にしたドラマが放映されていますが、先行きが不安な現代を見通すのに、過去を振り返ってみたいという背景もあるかもしれません。同様に、薬学や大学を取り巻く環境も険しいものがありますが、ここで原点を見つめ直すのも大切ではないかという気がします。私のような傍流を歩んできた者ゆえに見えてきたこともあるでしょうから、時折はそういう見地からの意見を述べさせて頂ければと思っています。

ところで最近、情報関連で「クラウド」という単語をよく見かけられるのではないのでしょうか。この意味を一言で説明するのは難しいのですが、学生が学習を積み重ねていく方法や、それに対する教育の仕方も大きく影響を受けるのは確かです。私の本業であるITでも、大学に貢献できるよう頑張りますので、今後とも皆様からのご指導・ご支援をよろしくお願い申し上げます。



薬学教育系
教育研究総合センター
情報処理教育研究センター
准教授 藤原 洋一

本年1月1日付で准教授に昇任させていただきました。私は本学大学院修士課程を修了後、薬品化学教室(現 薬品化学分野)の助手となり、木曾良明教授のご指導の下で、約12年間、「血圧調節系関連ペプチドの化学合成の方法論の開発ならびにその構造活性相関」について研究を行ってきました。その後、平成12年1月より教育研究センター(現 教育研究総合センター)情報処理教育研究部門(現 情報処理教育研究センター)へ異動となり、現在に至るまで、インフラの面では学内ネットワーク、各種サーバ類、演習室などの再構築およびその運用・管理を、教育

ではPCを用いた演習を中心に情報科目の授業を、深田守教授、石川誠司講師とともに担当させていただいています。振り返ってみますと、異動した当初、本学のインターネットへの接続回線速度は128kbpsしかなく、サービスの提供といっても、せいぜい電子メールとWebサイトを通じての簡単な内容の情報提供のみといった程度でした。その後、1.5Mbpsの回線速度の時代を経て、現在のように100Mbpsへとスピードアップが図られるようになると、本学から遠く離れた東北薬科大学（仙台）や日本薬剤師会中央薬事情報センター（東京）との合同授業がリアルタイムでできるようになったり、Webサイトを通じて、授業内容のビデオ配信やMoodleに代表される学習管理システムを学生が本格的に利用できるようになったり、その当時のことを思うと隔世の感があります。10年前の情報科目の授業は選択科目で、講義とアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint、ChemDrawなど）の基本的操作を中心とした演習が行われていました。その後の様々な情報技術の革新とともに、演習については、その内容が陳腐なものに

ならないように特に留意し、毎年見直しをしてきました。現在では情報科目は1年次の必修科目となっており、「習うより慣れろ」の精神で、とにかく「使えるPC技能」を修得させることを目標において、当センターでは「演習を中心」とした情報教育を行っています。

さて、私から学生の皆さんへお願いが、ひとつあります。それは自分のPCでも本学のオープン利用室のPCでも構わないので、実習や実験のレポートの作成に利用したり、授業のビデオを閲覧したり、せっかくのPCをどんどん使ってもらいたいということです。とにかく使って、“PCを生かしましょう”。学生、職員の皆さんにとって利用しやすくなるように、本学のPC利用環境をさらに改善していくように私自身、努力していくつもりです。最後になりましたが、本学の目指す薬学教育・研究に微力ながらも貢献していきたいと思っています。今後ともよろしくご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

「卒業生からのメッセージ」

キャリアチェンジ

大谷 俊秀

製剤学教室（現 薬剤学分野）
 平成元年 学部卒業
 平成3年 修士課程修了
 武田薬品工業株式会社
 医薬開発本部
 日本開発センター
 開発業務室 主席部員



私は、卒業後19年間同じ会社で勤務しておりますが、業務内容は、数回大きく変わっています。

当初配属された部署は、医薬開発本部の臨床開発部というところで、臨床試験（治験）の計画を作成し試験成績をまとめる業務（メディカルライティング業務）と、実際に医療機関へ出向き症例報告書（治験薬を投与された患者さんのデータを記載した報告書）を入手する業務（モニタリング業務）を担当しておりました。入社12年目に組織変更があり、メディカルライティング部門と、モニタリング部門に分かれ、私は、モニタリング部門で種々の薬剤の開発に携わってきました。

その後、データマネジメント部門へ異動し、臨床試験データを入力するデータベースの構築や入力されたデータをクリーニングするという業務を担当しておりました。

2年ほど前からは、臨床試験そのものには関わら

ず、人事・人財開発・組織開発を担当しております。

これらの、2度の大きな異動を命じられた時には、まだまだ前の業務を続けたいし、そこでキャリアも積みたいと思っておりました。これらの異動は、全く希望もしていませんでした。新たな業務に関する知識は全く持ち合わせていませんでしたし、そんな業務が自分にできるのかと非常に不安もありました。しかし、異動してみると、新たな業務への挑戦であり、非常にやりがいのある業務と感じました。結果、新たな自分自身を発見する非常に良い機会になり、自分自身を見つめ直す良い機会でもありました。今では、本当にこの異動が自分にとっては良かったなと思っています。

このように、これからの人生では、予期せぬことが多く起こると思います。また、現在は変化の激しい世の中ですし、今まで以上に予期せぬことが多く起こると思います。そんな状況であるからこそ、その予期せぬこと（偶然）を是非自分の中に受け入れて、利用し、自分自身を更に大きく成長させていくのが大事だと思います。できればその偶然を、自ら積極的に生み出していく努力も必要だと思います。そのためにも、目標を持つことは良いことですが、その目標だけに捉われず、いろんなことに好奇心を持ち、いろんな偶然を柔軟に受け入れ、冒険心を持っていろんな経験をしてください。

ちなみに、このようなキャリアに関する理論がありますので紹介しておきます。興味があればWEBなどで調べてみてください。【クランボルツ博士：ブランドハプスタンス理論】

特集 はじめての薬学共用試験を終えて

新入生の皆さんは『大学案内』を読んでいると思いますが、その7頁に「共用試験対策 CBT・OSCEにきめ細かく対応」という文言があります。これは、4年次に実施されるComputer-Based TestingとObjective Structured Clinical Examinationを意味しています。つまりコンピューターを利用した知識・思考力（問題解決能力）を問う多肢選択式の試験と技能・態度を客観的に評価する臨床能力試験のことです。この二つの試験を総称して共用試験と言います。この共用試験に合格しないと、5年次における学外の保険薬局や病院での薬剤師実務実習に行くことが出来ないのです。新入生の皆さんはずっと先の話しだと思うかも知れませんが、光陰矢のごとし油断は禁物ですよ。

さてこの共用試験が、6年制の4年次生を持つことになった全国の薬大や薬学部で昨年度はじめて実施されました。本学においても昨年の12月にそれぞれ丸二日を要して行われました。その結果報告が、責任者のお二人の先生からここでなされています。当初の心配をよそに、4年次の学生諸君はさすが伝統ある京薬生として見事な成果を上げてくれました。

今年度の4年次生の皆さんが全員優秀な成績で一度で共用試験に合格することを祈念しています。

京都薬科大学 薬学共用試験 OSCE委員会 副委員長 高山 明

京都薬科大学薬学共用試験OSCEは2009年12月19日（土）と20日（日）の両日に実施し無事終了しました。ご協力いただきました学外評価者の先生方をはじめ、学内の全職員の皆様にお礼申し上げます。

OSCEの課題は公表できませんが、下記に示す5領域6課題で実施されます。学生は課題内容を知らされず、しかも2名の評価者の前で、5分以内に終了しなければならないことから、かなりの精神的な負担がかかります。当日は極度の緊張のあまり実力を発揮できない学生もいましたが、多くの学生が無事突破してくれたことに対し健闘を称えるとともに、事前実習を担当した一人として安堵しています。大学における事前実習は前半グループが9月14日～10月15日まで、後半グループが10月22日～11月20日まで行いました。更にOSCE対策として11月24日～12月1日の期間に総合演習を行いました。総合演習の時、事前実習終了から長期間経過した前半グループでは、調剤手技を忘れていた学生が続出し、先行きが大変心配しました。しかし、自主練習を繰り返し行うことで乗り切ってくれたことに対し、改めて京都薬科大学の学生の潜在能力は高いと感じました。また、このことは多くの学外評価者からも「京都薬科大学の学生は質が非常に高い」と称賛していただきました。

運営面に関しては、学生の動線確保や誘導が徹底されていたため、OSCEはスムーズに流れました。ただ、試験施設（隣の学生の声が聞こえる）や領域間における連絡・指示等で改善しなければならない問題点も明確になりました。運営に関して頂いたご意見は来年度以降のOSCEに反映させていきたいと考えております。

評価に関しては、評価者養成講習会ならびに直前評価者講習会を開催し、評価者間の意見交換を充分していたことから、評価マニュアルに従った適正な評価が行われました。評価者間のバラツキはOSCEの根幹を揺るがすことにつながり、今後も評価者間のバラツキを極力抑える努力をしていきたいと思っています。

薬学教育6年制の一つの柱である薬学共用試験（CBT、OSCE）は、落すための試験でも、形式的に行って合格させる試験でもありません。5年次に実施する学外実務実習に行くのにふさわしい知識・技能・態度を学生が身につけているかを確認する試験です。薬剤師免許を持たない学生が医療現場で参加型の実習を行うためには、どうしても乗り越えなければならない関門です。これらの試験は大学の責任のもとで行うものであり、規模も大きいことから、全職員の協力なしで実施することは不可能です。

今後とも薬学共用試験（CBT、OSCE）に対し、皆様のご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

OSCEの領域と課題（例）

領域	課題（例示）
1. 患者・来局者対応	薬局での患者対応 病棟での初回面談 来局者応対
2. 薬剤の調製	計数調剤（錠剤・外用剤） 計量調剤（散剤、水剤、軟膏剤）
3. 調剤鑑査	手洗いと手袋の脱着
4. 無菌操作の実践	手洗いと手袋の脱着 注射剤混合
5. 情報の提供	薬局での薬剤交付 病棟での服薬指導 一般医薬品の情報提供（OTC） 疑義照会

京都薬科大学 薬学共用試験 CBT対策・実施委員会 委員長 山本 昌

皆様、ご存知のように、日本の薬学教育6年制が2006年4月から開始され、今年度、その第1期生が4年次後期に実施される薬学共用試験を初めて受験することとなった。この6年制のカリキュラムでは、5年次以降において長期病院・薬局実務実習が導入教育を含めて6ヶ月間実施されることになっており、これら実務実習に出る前に、共用試験が課せられており、これに合格しないと実務実習を受けられないシステムになっている。この共用試験は、実務実習を開始する前に、薬剤師としての資質や実習を受けるために基礎知識や技術を評価するための試験であり、コンピューターを用いた知識評価の多肢選択形式の試験である CBT (Computer-Based Testing) と患者さんとの対応に関する技能・態度・マナーの評価のための客観的臨床能力試験である OSCE (Objective Structured Clinical Examination) の2つに分類される。

このうち、CBT は、薬学共用試験センターが全国から集めた問題を用いて全国の薬系大学で実施するものであり、病院ならびに薬局実務実習に行く前に

各学生がこれら実習を行う上で十分な知識を有しているかを評価するための試験である。

本学における CBT の正規試験は、昨年12月24日（木）、25日（金）の両日で実施され、午前中のゾーン1では物理系薬学、化学系薬学、生物系薬学の問題、午後からのゾーン2では薬と疾病（薬理系、薬剤系、情報系）の問題、さらにゾーン3ではヒューマニズムとイントロダクション、健康と環境、薬学と社会、実務実習事前学習の問題が合計310題出題され、各学生はパソコンを用いてこれら問題に対する解答を行った。当日各学生は既に CBT の模擬試験などを体験していることもあり、パソコン操作に戸惑う学生も少なく、試験は全般にスムーズに実施された。また、各ゾーンの試験時間は2時間であるが、退出可能な試験開始1時間経過以降に多くの学生が退出する傾向がみられ、比較的速やかに解答が終了した学生が多いという印象を受けた。なお未受験者ならびに不合格者の学生については、今年の2月16日（火）に CBT の再試験が実施され、先日、こちらも大きなトラブルもなく終了した。

最後に本試験では多くの職員の方々に監督業務などをお願いし、御協力を頂きましたことについて改めて御礼を申し上げます。



CBT会場 (K11演習室)



CBT会場 (K21演習室)

おことわり： 共用試験内容の機密保持のため、試験の実施風景写真は掲載できません

2010年度入学試験結果について

2010年度の学部入学試験が終了しました。志願者数・合格者数は下表のとおりです。

高等学校の進路指導担当者及び受験教育専門機関等の情報によると、2008年秋の経済危機以降、景気回復の兆しがみられないことから、受験生は、経済的負担の少ない国公立大学や6年制薬学部以外の4年制学部への志向をますます強めており、今後も全国私立薬系大学への志願者数は減少して行くとの予測が大勢を占めています。

このような厳しい状況下、本年度もオープンキャンパス、進学説明会・相談会、模擬講義、高校訪問、予備校訪問等の活動により志願者の維持・確保に努めてまいりましたが、2010年度の本学への全体の志願者数は、前年比97.1%となりました。(2009年度は、前年比92.1%)

2011年度も広報活動を通じて、志願者の維持・確保に努める所存でございますが、もし、皆様のご親戚、ご近所、高校の後輩等で、大学受験を控えた方がおられましたら、本学受験をお勧めくださいますようお願いいたします。

	募集人員	志願者数	合格者数
一般公募制推薦	83名	298名	103名
一般入学試験A方式	30名	825名	280名
一般入学試験B方式	180名	1162名	525名
一般入学試験C方式	5名	25名	12名

(以上のほか、指定校制推薦入試を実施しています。合格者数は3月13日現在)

2010年度大学院薬学研究科薬学専攻博士後期課程(冬季募集)入学選考結果

2010年度大学院薬学研究科薬学専攻博士後期課程(冬季募集)入学選考を1月25日(月)に実施し、同日、合格発表を行いました。志願者数・合格者数等は下表のとおりです。

○2010年度大学院薬学研究科薬学専攻博士後期課程(冬季募集)入学選考結果

(単位:名)

志願者数	受験者数	合格者数
2	2	2

受賞

日本環境感染学会 第1回上田Award

代謝分析学分野の安井裕之教授および市立堺病院の安井友佳子薬剤師、阿南節子薬剤科長、藤本卓司総合内科部長の共同研究により、日本環境感染学会誌(Vol. 23, No. 1)に掲載された論文(題名「低アルブミン血症患者を対象とした遊離型薬物濃度にもとづくTeicoplanin負荷投与量の提案」)が年間最優秀論文に選ばれ、2010年2月に開催された第25回日本環境感染学会総会において「第1回日本環境感染学会上田Award」が贈呈されました。本研究は、抗MRSA薬であるteicoplaninを高齢者や腎機能の低下した患者に対して適正に投与するため、血清中のアルブミン濃度とタンパク質に結合していない遊離型teicoplanin濃度の関係を明らかにし、患者個々のアルブミン濃度に応じた投与量の設定法を確立しました。本法は、TDMのノモグラムとして実際の臨床現場で使用されています。Y. Yasui, et al. Effective loading dose of teicoplanin for hypoalbuminemic patients based on evaluation of serum concentration of unbound drug. 日本環境感染学会誌, 23, 19-26 (2008).



代謝分析学分野の研究論文が Metallomics誌の表紙を飾る

代謝分析学分野の吉川豊講師、安井裕之教授および桜井弘名誉教授の研究が、英国王立化学協会から出版されているMetallomics紙の表紙絵に選ばれました。本研究は、種々の生体必須微量元素のスクリーニング試験から、硫酸銅や硫酸亜鉛が小腸内に存在する二糖類を単糖類に分解する酵素(α-グルコシダーゼ)を阻害し、糖尿病治療薬の候補化合物として期待できる事を明らかにしたものです。Y. Yoshikawa, et al. Inhibitory effect of CuSO₄ on α-glucosidase activity. Metallomics, 2, 67-73 (2010).

Metallomics



新入生のみなさんご入学おめでとうございます。
図書館の使い方をご紹介します。利用案内、
学生便覧には詳しく案内していますが、分からない
ことはご遠慮なくスタッフへ尋ねてください。

■開館時間 平 日 9:00～20:00
土 曜 日 10:00～17:00
夏季休暇中 9:00～17:00

■休館日 日曜日、国民の休日、本学創立記念
日、夏・冬季休暇中の一定期間のほか大学の行事な
どによる臨時休館があります。

■本の借り方

借りたい本と一緒に学生証をサービスカウンター
へ持ってきてください。同時に借りられる冊数は全
部で5冊です。貸し出し期間は、図書は2週間、雑誌
は1日です。

■本の返し方

サービスカウンターへ持ってきてください。本を
返すときに学生証は要りません。返却期限を守りま
しょう。期限を過ぎると超過日数の2倍の期間、本を
借りることができなくなります。

図書館開館日程 (4月～6月) **太字**は休館日

4 月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

5 月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

6 月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

新図書館がオープン 閲覧席数は3倍に — 新図書館の主なサービス機能 —

2階

閲覧席 (116 席)

- ・学習用図書 ・参考図書 (辞書、事典等) ・大型図書 ・新書、文庫
- ・就職、薬剤師国家試験関係図書 ・情報端末機 (秋頃1台設置予定)

1階

閲覧席 (118席)

- ・インフォメーション (サービスカウンター)
- ・新着図書 ・新着雑誌 ・AV資料 ・京都薬科大学関係資料
- ・情報端末機 (OPAC検索 2台 情報検索 4台)
- ・大型プリンター ・複写機 (モノクロ2台)
- ・ブラウジングコーナー ・新聞コーナー ・視聴覚コーナー

地階

閲覧席 (69席)

- ・書庫 (研究用図書・雑誌バックナンバー等) ・貴重書庫
- ・複写機 (カラー 1台) ・情報端末機 (秋頃2台設置予定)

クラブだより

剣道部

昨年12月27日(日)に、剣道部部員とOBが集まり、これまで剣道部師範として、長年にわたってお世話になった家久和三郎先生の「米寿を祝う会」を開催しました。家久先生には昭和58年6月から本学剣道部部員の指導をお願いし、これまでに指導を受けた部員は200名以上になります。また、本学が幹事校として大会を開催したときには、審判団の手配にご尽力いただき、自ら審判長を務めていただくなど大変お世話になってきました。これまでのご尽力に対して、大学と現役部員から感謝状と記念品を贈呈しました。平成22年4月からは後任の師範として今里正克先生(京都産業大学名誉教授)をお迎えし、指導をお願いすることになっています。(写真中央で感謝状をお持ちの方が家久先生、その右隣の方が今里先生です)

これからも剣道部の活躍をご期待ください。



米寿の会

マンドリン部

こんにちは、マンドリン部です。

私たちはイタリア生まれの弦楽器であるマンドリンを中心に、マンドラ、マンドロン・チェロとクラシックギター、コントラバスでオーケストラを形成し、主に10月中旬の定期演奏会を目指して日々練習に励んでいます。今年4月は新歓コンサート、また京都大学や同志社大学をはじめとする京都市内の大学との壮大な合同演奏会も行います。

現在部員は25名。今年も勉強とアルバイトを両立しながら、和気あいあいとアットホームな雰囲気です活動していきます。

硬式庭球部

硬式庭球部は2、3年次生を中心に8月に行われる関西薬学生連盟硬式庭球大会に向けて練習をしています。

今年度の活動予定

- 5、6月 定期戦
- 8月 関西薬学生連盟硬式庭球大会
- 10、11月 定期戦
- 3月 春合宿

男子団体戦は関西薬学生連盟硬式庭球大会において2連覇中です。

バレーボール部

バレーボール部の活動実績と今後の活動予定です。

男子バレーボール部

【2009年度活動実績】

- 4月 関西春季リーグ戦
 - 5月 OB戦及びOB会
 - 6月 六葉戦(第4位)
キャンプ
 - 8月 関西薬学生連盟バレーボール大会(優勝)
 - 10月 関西秋季リーグ戦
 - 11月 OB戦及びOB会
 - 12月 六葉戦(優勝)
 - 2月 追いコン
 - 3月 東京薬科大学交流戦 東京観光
- ※2010年度もほぼ同じ予定です。

女子バレーボール部

【2009年度活動実績】

- 春の六葉戦 5位
- 関西薬学生連盟バレーボール大会 8位
- 冬の六葉戦 6位

【2010年度活動予定】

- 6月 六葉戦
- 8月 関西薬学生連盟バレーボール大会
- 12月 六葉戦
- 3月 合宿

ユーベルコール部

私たちユーベルコールは、主に11月に行われる定期演奏会に向けて活動中です。

年間行事

- 4月 新歓コンサート
- 6月 京都合唱祭
- 8月 夏合宿
- 11月 定期演奏会
- 12月 クリスマス会
- 3月 春合宿

上記が今後の予定です。活動時間は下記の通りです。

- 月～金曜日 12:40～13:10
- 木曜日 17:00～19:00

また、練習場所が6号館の621講義室から南校舎に移動し、部員全員が新たな気持ちでこの春を迎えております。これからも楽しいこと、辛いことがあるかも知れませんが、1日1日を大切にしながら過ごせたらと思います。

最後に、ユーベルコール部のHPはこちらです。

<http://xxxjubelxxx.fc2web.com/>

お 知 ら せ

他大学の科目・講座を
受けてみませんか!!!

【単位互換制度】

本学は「大学コンソーシアム京都」の単位互換制度に参加しており、京都地域を中心とした大学・短期大学が提供する科目を履修し、単位を修得すれば本学の単位として認定されます。（2009年度は46大学から504科目が提供されました）つまり、京都薬科大学に在籍しながら他大学の授業を受講することができるわけです。修得した単位は、1年間2科目4単位を限度として、本学の卒業要件である「人と文化」の選択科目の単位として加算され、それを超えて履修した科目の単位については、自由科目として認定されます。（本学での取扱いについての詳細は、学生便覧及びシラバスを参照して下さい）

単位互換制度の特徴として、

- ①講義科目は文化・芸術・政治・自然科学などほぼ全ての学問分野にわたる科目が10テーマに分類され提供されている。
- ②講義形態は持出講義と既存講義があり、持出講義は集中講義や土曜日・夏季休暇期間に開講されるなど、他大学生でも受講しやすいよう工夫されている。
- ③持出講義の開講場所は、「キャンパスプラザ京都」（京都駅前）にて開講される。
- ④講義を受講することにより、他大学生との交流の機会が広がる。
- ⑤受講生は単位互換履修生として身分証明書が発行され、科目開設大学の図書館等を利用することができる。
- ⑥全ての科目を無料で受講できる。（ただし、科目によっては、参考書等テキスト代が必要）などという点も、この制度の大きな特徴と言えるでしょう。

受講の申し込みは、前期・集中・後期科目とも4月7日（水）まで教務課で受付けます。詳しい授業概要等については教務課にて配布している「単位互換履修生募集ガイド」を見て下さい。

また、大学コンソーシアム京都ではホームページ上で単位互換科目のシラバスを公開しています。

<PC><http://www.consortium.or.jp/student/tan-i/>
<携帯><http://cs.consortium.or.jp/student/m/>

科目開講時には休講・補講・試験等の連絡事項も閲覧することができます。

奨学金のご案内

奨学金は、①日本学生支援機構奨学金 ②京都薬科大学奨学金（大学独自の奨学金） ③地方自治体の奨学金 ④企業・団体の奨学金に大別できます。

それぞれについて、以下に簡単に説明します。

①日本学生支援機構奨学金

「第一種奨学金」（無利子）と「第二種奨学金」（有利子）の二種類の奨学金があります。

4月初旬に、説明会を実施しますので、希望者は必ず出席して下さい（詳細は奨学金関係掲示板に掲示）。

奨学生に採用されると、卒業するまで奨学金が貸与されます（ただし留年及び休学中は停止）。

なお、1年次生で奨学生に採用されなくても、2年次生以上の各学年で再び申請することができます。

【基本月額】

何れかの希望月額を選択できます。

○第一種奨学金（無利子）

- ・学 部 3万円(自宅、自宅外)、
5.4万円(自宅)、6.4万円(自宅外)
- ・博士前期 5万円、8.8万円
- ・博士後期 8万円、12.2万円

○第二種奨学金（有利子）

- ・学 部 3万円、5万円、8万円、10万円、12万円
(12万円を選択した場合は2万円の増額希望可能)
- ・大学院 5万円、8万円、10万円、13万円、15万円
- 入学時特別増額貸与奨学金（有利子）

大学、大学院の第1学年において日本学生支援機構が定めた年月を始期として奨学金（第一種・第二種）の貸与を受ける者が対象。

- ・10万円、20万円、30万円、40万円、50万円

○緊急・応急採用奨学金

出願の1年以内に家計を支えている者が、失職・破産・会社の倒産・病気・死亡等により家計が急変したため緊急に奨学金の必要が生じた場合に随時受け付けています。

②京都薬科大学奨学金

○貸与型（無利子貸与）

- ・学 部 年額 授業料の1/2 以内
- ・大学院 年額70万円以内

学部生・大学院生併せて20名程度を募集します。9月の下旬に、説明会を開催しますので、希望者は必ず出席して下さい（詳細は奨学金関係掲示板に掲示）。

決定するのは11月初旬の予定で、同月下旬には、奨学金を一括支給します。原則として、1年限りの奨学金です。

○給付型（返還義務なし）

- ・学部新入生 半期授業料の2分の1
- ・大学院新入生 半期授業料

学部生約10名・大学院生約5名を、いずれも入試成

績優秀者に大学が選考（申請ではなく候補者は大学が選考）し5月に給付します。

・在学 20万円

2年次から5年次に在学し、各学年約10名の特に学業成績優秀者（前年次の成績）に大学が選考（申請ではなく候補者は大学が選考）し5月に給付します。

○授業料減免型

・主たる家計支持者の死亡、失業等により家計が急変し、本学納付金の支払が困難な者約5名に対し、半期授業料の減免を在学中1回に限り、随時受け付けます。

③④地方自治体、企業・団体の奨学金

これらの奨学金のうち、学生課を通じて募集するものについては、募集の都度掲示板に掲示します。ただし、直接それら団体が募集するものについては、各自地元の教育委員会等に問い合わせして下さい。

以上簡単に説明しましたが、奨学金に関する質問などがありましたら、早めに学生課へお問い合わせ下さい。

学生相談室のご案内

充実した学生生活を送るために、学業のこと、家族のこと、友だちのこと、自分のこと…どんなことでもお気軽にご相談ください。精神科医および臨床心理士による相談室があります。

相談内容について、秘密は全て守られます。

学生相談室担当

精神科医1名（月1回、詳細日程は毎回掲示にて確認してください）

臨床心理士2名

日 時:毎週火・金曜日午前10時から午後2時まで

場 所:愛学館1階 医務室内カウンセリングルーム

相談方法:医務室で相談日時の予約をしてください。

受 付:学生課・医務室

連絡先： 学生課 075-595-4614（直通）

不審な問い合わせにご注意下さい！

学生の実家へ京都薬科大学の職員などと称し、「下宿の住所」や「携帯電話の番号」を聞き出そうとする不審電話があったとの報告がありました。

本学では、学生の個人情報に関するこのような問い合わせは、一切行っておりません。

このような問い合わせ電話には、「答えられない」とはっきり拒否していただくとともに、お手数でも学生課にご連絡いただきますようお願い致します。

連絡先： 学生課 075-595-4614（直通）

第3回 自治会広報部主催クリスマス企画

昨年12月上旬から12月25日のクリスマス当日にかけて、自治会広報部フリーペーパー制作委員会主催・第3回クリスマス企画を実施致しました。愛学館入り口poppy前にツリーやリースなどのクリスマスオーナメントを飾り、イルミネーションを行うというこの時季ならではの企画です。

今回で3度目の開催となりますが、先輩方が広報部を卒業された後の初の2年次生主体の企画でもあり、ひとつの企画を一から行うことの苦労を実感しつつ、広報の活動をきちんと引き継いでいかなければという思いで飾り付けに取り組みました。学生課や教育後援会、警備の方々など多くの方にご協力いただき、今年も無事クリスマス企画を終えることができました。開催期間中、愛学館を訪れた方々がイルミネーションに目を留め、今年もクリスマスの季節なのだなぁと少しでも感じていただけていたら、広報部員一同、心より嬉しく思います。

自治会広報部フリーペーパー制作委員会では12月のクリスマス企画の他、7月の七夕企画、年4回のフリーペーパー発行などの活動を行っています。今後も京菓の皆さんが豊かな学生生活を送る一助になれば幸いです。

自治会広報部フリーペーパー制作委員会



クリスマスツリー



イルミネーション

2009年度学位記（博士・修士）及び 卒業証書・学位記（学士）授与式

2009年度学位記（博士・修士）及び卒業証書・学位記（学士）授与式を、3月20日（土）10時から中央講堂兼体育館で執り行いました。

大学院博士後期課程6名、博士前期課程86名、修士課程16名に学位記（博士又は修士）、学部薬学科8名、製薬化学科11名、生物薬学科10名に卒業証書・学位記（学士）が西野学長より授与されました。

式終了後、午後1時より、本学愛学館学生食堂で、「卒業記念祝賀会」が開催され、職員をはじめご父母の皆様、また、本学卒後30周年を迎える昭和55年卒業生を交え、新しい門出を祝いました。

学位記（博士）授与式

3月20日（土）11時30分から愛学館第1会議室において、2009年度課程博士7名及び課程によらない博士（後期）2名に、西野学長から学位記が授与されました。

人 事

任命

2010. 4. 1付
学長 乾 賢一

退任・退職

2010. 3. 31付
学長 西野 武志

昇任

2010. 4. 1付
薬学教育系教育研究総合センター臨床薬学教育研究センター
准教授 津島 美幸
病態薬科学系病態生化学分野 講 師 石原 慶一

採用

2010. 4. 1付
基礎科学系薬学英语分野 教授 フォン フー ワー
分析薬科学系薬品物理化学分野 講 師 土谷 博之
薬学教育系教育研究総合センター臨床薬学教育研究センター
講 師 今西 孝至
薬学教育系教育研究総合センター臨床薬学教育研究センター
講 師 河野 修治
病態薬科学系病態生化学分野 助 手 金井 志帆
薬学教育系教育研究総合センター薬学教育研究センター
助 手 西村 奏咲

薬学教育系教育研究総合センター臨床薬学教育研究センター
助 手 松尾 道代
事務局学生課 事務員 藤林 亜佐子
事務局教務課 事務員 谷垣 朱美
事務局学生課 契約職員 土井 明香

配置換

2010. 4. 1付
薬学教育系教育研究総合センター学生実習支援センター
講 師 港 晶雄
(薬学教育系教育研究総合センター薬学教育研究センター)

薬学教育系教育研究総合センター学生実習支援センター
講 師 若槻 徹
(薬学教育系教育研究総合センター薬学教育研究センター)

薬学教育系教育研究総合センター学生実習支援センター
講 師 竹島 繁雄
(薬学教育系教育研究総合センター薬学教育研究センター)

生命薬科学系衛生化学分野 助 教 安田 江里
(薬学教育系教育研究総合センター
臨床薬学教育研究センター)

退職

2010. 3. 31付
創薬科学系薬品製造学分野 教 授 野出 學
生命薬科学系分子生体制御分野
教 授 大和田幸嗣
薬学教育系教育研究総合センター臨床薬学教育研究センター
教 授 黒田 和夫
薬学教育系教育研究総合センター臨床薬学教育研究センター
教 授 柴川 雅彦
医療薬科学系薬物動態学分野 准教授 杉岡 信幸
創薬科学系機能分子化学分野 助 手 久留米 愛
事務局学生課 主 事 井上真理子

兼務の解除

2010. 3. 31付
創薬科学系薬品製造学分野の兼務の解除
准教授 細井 信造
(薬学教育系教育研究総合センター薬学教育研究センター)

創薬科学系薬品化学分野の兼務の解除
准教授 木村 徹
(薬学教育系教育研究総合センター学生実習支援センター)

薬学教育系教育研究総合センター薬学教育研究センターの
兼務の解除 講 師 小川俊次郎
(共同利用機器センター)

2010年度 オープンキャンパス開催のお知らせ

2010年度のオープンキャンパスを下記の日程で行いますので、お知り合いの受験生や高校生に是非、ご案内くださいますようお願いいたします。

詳細につきましては、本学ホームページをご覧ください。また、入試課にお問い合わせください。

6月のオープンキャンパス

〈日時〉

6月13日（日）

10：00～12：45

〈主な内容〉

大学紹介・在学生の話・卒業生の話・
施設見学・相談会など

8月のオープンキャンパス

〈日時〉

8月7日（土）・8月8日（日）

午前の部 9：30～12：30

午後の部 13：30～16：30

（両日とも、午前、午後の内容は同じ）

〈主な内容〉

大学紹介・ミニ講義・体験実習・施設見学・
相談会など

10月のオープンキャンパス

〈日時〉

10月31日（日） 京薬祭開催期間中

10：00～12：45

〈主な内容〉

大学紹介・在学生の話・卒業生の話・
施設見学・相談会など

入試課

京薬会だより

<2010年度卒業教育講座>

2010年度卒業教育講座は、大学キャンパスで開講する講座（卒業教育A）とともに、新たに昨年より始まったインターネット配信による講座（卒業教育B）を概ね例年に準じて開講しますが、詳細は、京薬会ホームページ（<http://www.kpu-aa.com/>）・薬業紙等で案内します。

<2010年度京薬会代議員総会>

2010年度代議員総会が5月22日（土）午後より愛学ホールで開催されます。また、午前中には、代議員総会に先立ち支部長会が行われます。

<京薬会ホームページ>

2009年に機能性の増した新しい京薬会ホームページ（<http://www.kpu-aa.com/>）が開設され、12月までにアクセス数約14,000件となりました。今後も内容の充実を図り、内容更新に努めて参ります。会員および本学学生の皆様には、ログインページにある登録フォームに必要事項を記入し送信して、ID・パスワードの配信を受けた後、アクセスしてください。また、会員のページ中にクラブのページ、研究室のページなどの設置が可能ですのでご利用下さい。

<奨学金の贈呈>

京薬会より、京都薬科大学に奨学金基金として、2009年9月30日に100万円が寄付・贈呈されました。一方、京薬会独自の奨学金支給についても現在検閲中であり、近々掲示します。

<駅伝協賛>

京薬会は、昨年12月12日に実施された学内駅伝および同ぜんざい会に協賛しました。後者では450食のぜんざいと飲み物を提供しましたが、駅伝出場者と応援者にあつという間に完食していただき、大変好評でした。

<学部新生に分子モデル配布>

京薬会では学部新生に入学祝として小型分子モデルを4月上旬配布します。もし配布漏れがありましたら、京薬会事務室までお申し出下さい。

京都薬科大学奨学寄附金募集について

本学関係者の皆様

本学関係者の皆様には、平素から大学運営に多大なるご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

2008年12月から募集を開始し、京薬会会員の皆様を中心に、教育後援会会員、企業、法人役員、評議員、職員等の方々からお寄せいただきました奨学寄附金は2009年10月31日現在、255件1,364万円に上っており、これを奨学基金に組入れ2010年4月から「授業料減免型奨学金」および「給付型奨学金」の新しい奨学金制度を導入する運びとなりました。皆様からの多大なるご協力に厚く御礼申し上げます。

新たに追加した奨学金制度の詳細については最終ページに掲載しております。厳しい経済状況が続く中、今後も奨学金の需要が高まることが予想され、本学では、学生の修学支援を更に充実して参りたいと考えております。

つきましては、引き続き、皆様からのご寄附による資金的なご支援をお願い申し上げます。

ご寄附いただきました資金は、奨学寄附金として受け入れ、奨学基金に積み立て、有効に活用させていただきます。また、ご寄附をいただきました方々は、年度毎の寄附者名簿を作成し永久保存し、寄附者名を学内誌「KPU NEWS」にも掲載させていただきます。

学生たちの修学支援のため、今後とも奨学寄附金へのご協力を賜りたくお願い申し上げます。

2010年1月

学校法人 京都薬科大学
理事長 田村 正昭

京都薬科大学
学長 西野 武志

【京都薬科大学寄附金募集要項】

- 1 目的 奨学金制度の充実
- 2 金額 一口 1万円（一口以上でお願いいたします）
- 3 寄附金の使途 奨学基金の積み増し
- 4 申し込み及び振り込み方法

下記電話番号にご連絡いただきましたら、ご案内および振込用紙を郵送させていただきます。

- 5 担当・お問い合わせ場所
京都薬科大学 庶務課
〒607-8414 京都市山科区御陵中内町5
TEL：(075) 595-4600（代表）、(075) 595-4608（庶務課直通）

6 減税措置

本学は、ご寄附を賜った方に対して税法上の特典を受けられる「特定公益増進法人」であることの証明を受けております。本学に対して、個人または法人が寄附を行った場合は、その個人・法人ともに税法上の優遇措置が与えられます。

1) 個人の場合（寄附金控除）

寄附金が2千円を超える場合は、その超えた金額が当該年度の課税所得から控除されます。

【所得税寄附金控除の手続について】

大学発行の領収書と「特定公益増進法人証明書（写し）」を添えて、寄附した翌年の確定申告期間に所轄税務署に確定申告書を提出し、所得税の還付請求をしていただくことになります。

2) 法人の場合（損金参入）

寄附金の額が、当該事業年度の損金に算入されます。一般寄附金の損金算入限度枠とは別枠で、同額までの金額を損金に算入できます。

京都薬科大学奨学寄附金ご芳名録

下記の方々から寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

* 高額のご寄附（10万円以上）を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。

* 敬称略、ご芳名のみ掲載しております。

2008年12月・2009年に寄附をお寄せいただいた方々

〈卒業生・同期会等（卒業年次順）〉

久保 巖(昭14卒)	辻 勝蔵(昭34卒)	前田 由美(昭43卒)	堀内 順平(昭57卒)
大杉 三郎(昭16卒)	小林 正明(昭35卒)	渡辺 温(昭43卒)	有田 昌純(昭58卒)
石黒 道彦(昭19卒)	三森 寿一(昭35卒)	高越 清昭(昭44卒)	栗尾和佐子(昭58卒)
末永 克己(昭19卒)	市川 和子(昭36卒)	吉田 和子(昭44卒)	石岡 浩子(昭59卒)
石垣 永吉(昭20卒)	鎌倉 嘉男(昭36卒)	石光 進(昭45卒)	市川 克己(昭59卒)
高宮 靖(昭20卒)	小泉 健(昭36卒)	稲垣 美幸(昭45卒)	平 雅文(昭59卒)
広瀬 泰久(昭20卒)	布施知加子(昭36卒)	佐伯 素子(昭45卒)	高柳 佳澄(昭59卒)
井上 隆夫(昭22卒)	松野 愛子(昭36卒)	川崎健太郎(昭46卒)	藤本 悦子(昭59卒)
松本 蒼平(昭22卒)	松村 郁治(昭36卒)	杉本磨理子(昭46卒)	三河絵梨子(昭60卒)
久保田光二(昭23卒)	大賀 弘一(昭37卒)	戸井 一郎(昭46卒)	川島 弓枝(昭62卒)
杉山 隆二(昭23卒)	嶋田 義彦(昭37卒)	松本 勉(昭46卒)	柴田 公見(昭62卒)
西野 哲夫(昭23卒)	中村 悦子(昭37卒)	村山 雅子(昭46卒)	瀧 美知代(昭62卒)
大槻 房三(昭24卒)	本岡美智子(昭37卒)	山本加寿子(昭46卒)	猪熊眞由実(昭63卒)
小財 勲(昭24卒)	今村 浩(昭38卒)	荒石 悦子(昭47卒)	佐々木 務(昭63卒)
松本 恒行(昭24卒)	今村 薫子(昭38卒)	小林 元樹(昭47卒)	辻本千代美(昭63卒)
村尾 重之(昭24卒)	藤本 國勝(昭39卒)	戸井 豊子(昭47卒)	赤川 征一(平01卒)
山本 容平(昭26卒)	宮川 喬行(昭39卒)	北山 進三(昭48卒)	岩井 隆也(平01卒)
永友 敏郎(昭27卒)	六車 昭美(昭39卒)	渡邊 萬里(昭48卒)	八崎 裕明(平04卒)
岡 恒(昭28卒)	矢野 好隆(昭39卒)	井岡 万純(昭49卒)	山岸重紀子(平05卒)
笠島 俊男(昭28卒)	横田 好子(昭39卒)	石原ゆき子(昭49卒)	岸田 幸子(平08卒)
倉本 昌明(昭28卒)	竹内 宏一(昭40卒)	井上 佳昭(昭49卒)	佐久間賢治(平09卒)
澤口 元(昭28卒)	向林素鶴子(昭40卒)	岡田みどり(昭49卒)	松本 望(平10卒)
澤口 萌子(昭28卒)	浅野紗智子(昭41卒)	吉澤 房子(昭49卒)	安宅 弘充(平13卒)
堀内 厚生(昭28卒)	貴宝院善博(昭41卒)	扇谷 年昭(昭50卒)	木村 寛之(平13卒)
牧 敬文(昭28卒)	國貞 真司(昭41卒)	佐々木康夫(昭50卒)	奥林 活人(平14卒)
増田 本彦(昭28卒)	厚東 正子(昭41卒)	清水 薫(昭50卒)	富山 剛(平14卒)
金生 貞治(昭29卒)	突合 皐月(昭41卒)	中嶋 澄江(昭50卒)	沼波 康恵(平16卒)
藤岡 三夫(昭30卒)	寺坂哲太郎(昭41卒)	能口 敬子(昭50卒)	石田 善浩(平18卒)
藤沢平八郎(昭30卒)	中村 泰三(昭41卒)	丹所 稔(昭51卒)	高井 麻里(平18卒)
八崎 輝義(昭30卒)	七海 朗(昭41卒)	勝 裕子(昭52卒)	高橋 健人(平20卒)
中川 知秀(昭31卒)	七海 禮子(昭41卒)	河原 曜子(昭52卒)	林 卓志(平20卒)
永浜 淳子(昭31卒)	藤本 恒子(昭41卒)	森 一二美(昭52卒)	松本 直之(平20卒)
福井美代子(昭31卒)	山下 繁克(昭41卒)	大脇 弘之(昭53卒)	匿名希望 2名
増田みち子(昭31卒)	山下三千子(昭41卒)	柘植 邦博(昭53卒)	洛楽会 (昭29卒)
安達 茂子(昭32卒)	赤坂由利子(昭42卒)	野原 基司(昭53卒)	五・五会 (昭32卒)
上田 啓三(昭32卒)	川崎 昌義(昭42卒)	大前 壽子(昭54卒)	京都薬専・薬大
小西 久子(昭32卒)	北 泰行(昭42卒)	田中 弘人(昭54卒)	植研0B・0G会
佐藤千鶴子(昭32卒)	谷口 睦子(昭42卒)	平野 隆(昭55卒)	昭和54年卒業生
村井 一枝(昭32卒)	山口 博行(昭42卒)	大滝 勝憲(昭56卒)	有志一同
安田 和夫(昭32卒)	山下 政彦(昭42卒)	竹田奈保美(昭56卒)	武田薬品研究所
湯浅 総司(昭32卒)	久米 和子(昭43卒)	長屋ちとせ(昭56卒)	有志一同
中川 幸雄(昭33卒)	富永 勲秀(昭43卒)	吉村 聡子(昭56卒)	薬品製造学分野
安松 幹夫(昭33卒)	富永 享子(昭43卒)	香川 春樹(昭57卒)	京都薬科大学京薬会
木村 恵一(昭34卒)	富永 護(昭43卒)	佐野 敬子(昭57卒)	

〈教育後援会会員（五十音順）〉

岡田 代吉

松岡 輝秋

屋木 利之

〈企業・団体（五十音順）〉

株式会社茨木春草園	株式会社京都ラボ	丸善株式会社京都支店
キノンビクス株式会社	大和電設工業株式会社	匿名希望 4社
京都電子計算株式会社	株式会社長角堂	
株式会社京都廣川書店	株式会社不二家商事	

〈法人役員・評議員・職員（五十音順）〉

秋葉 聡(教授)	桑原 敏則(課長)	長澤 吉則(准教授)	宮秋 昭(理事)
蘆田 康子(理事)	小里 芳顕(課長)	中田 徹男(教授)	宮川 克之(評議員)
天ヶ瀬紀久子(助教)	児玉 孝(評議員)	奈邊 健(准教授)	宮本 茂敏(理事)
有本 收(教授)	後藤 勝実(講師)	西口 工司(教授)	宮本 孝(課長)
石川 誠司(講師)	後藤 直正(教授)	西野 武志(学長)	村澤 悟(局長)
石黒 博直(評議員)	佐原 和美(主査)	能勢 俊彦(課長)	村田 保(講師)
石原 慶一(助教)	隅田 芳男(講師)	野出 學(副学長)	村山猪一郎(監事)
伊槻 雅子(評議員)	高野 江里(課長)	橋詰 勉(教授)	森田 和子(評議員)
乾 賢一(理事)	高山 明(教授)	畑山 巧(教授)	安井 裕之(教授)
井本富美代(主査)	竹内 孝治(教授)	浜崎 博(教授)	矢野 義孝(教授)
入江 一充(監事)	武上 茂彦(講師)	阪 幸子(主査)	山岸 伸行(准教授)
上西 潤一(教授)	武田 禮二(理事)	樋口 文子(係長)	山下 豊彦(課長)
大槻 雅子(准教授)	谷口 隆之(教授)	深田 守(教授)	吉村 律子(主事)
抱 喜久雄(教授)	田村 正昭(理事長)	藤原 洋一(准教授)	渡辺 徹志(教授)
加藤 伸一(准教授)	津岡 実穂(主事)	星野 展宏(主査)	京都薬科大学
北出 達也(教授)	月岡 淳子(助教)	前田 朋宏(主査)	教授親睦会
北村 佳久(准教授)	土屋 勝(理事)	増田 重治(課長)	京都薬科大学学生課
久米 光(評議員)	土岐 隆信(評議員)	松井 常孝(評議員)	
桑形 広司(准教授)	長澤 一樹(教授)	皆川 周(助教)	

〈元教授（五十音順）〉

井上 武久	北村 桂介	藤井 達三	村西 昌三
太田 俊作	河野 茂勝	藤本 貞毅	
金澤 治男	福井 昭三	穂積啓一郎	

2010年に寄附をお寄せいただいた方々

〈卒業生・同期会等（卒業年次順）〉

久保 巖(昭14卒)	吉光 博恵(昭36卒)	平越 孝平(昭42卒)	島 知子(昭52卒)
久保田桃三(昭24卒)	池崎 宗克(昭38卒)	山口 博行(昭42卒)	森 一二美(昭52卒)
岩城 宗吉(昭28卒)	久山 弥栄(昭40卒)	池阪喜代子(昭44卒)	神川 邦久(昭56卒)
滝野 哲(昭29卒)	七海 朗(昭41卒)	辻 孝範(昭45卒)	竹田奈保美(昭56卒)
岡本 秀雄(昭31卒)	七海 禮子(昭41卒)	今井久美子(昭48卒)	抱 隆史(昭61卒)
清水 政信(昭32卒)	藤田 成孝(昭41卒)	辻 美稚子(昭48卒)	山口 昌史(昭61卒)
柳田紀美枝(昭34卒)	谷口 睦子(昭42卒)	安武 廣(昭49卒)	

〈企業・団体〉

匿名希望 1社

〈法人役員・評議員・職員（五十音順）〉

蘆田 康子(理事)	北村 享子(助教)	白木太一郎(評議員)	浜崎 博(教授)
菊本 均(評議員)	小里 芳顕(課長)	武田 禮二(理事)	宮本 孝(課長)
北出 達也(教授)	後藤 直正(教授)	田村 正昭(理事長)	山下 豊彦(課長)

〈元教授（五十音順）〉

佐藤 隆司 舟崎 紀昭

(2010年3月5日現在)

新校舎「躬行館」が竣工しました

2008年11月に着工した新校舎「躬行館（きゅうこうかん）」が2010年2月28日（日）に無事竣工しました。3月5日（金）には田村理事長、西野学長をはじめ関係各位並びに来賓の皆様の出席のもとに竣工式を執り行いました。躬行館は延べ床面積11,334.1㎡の地上5階、地下1階の建物です。図書館、14の講義室、16のセミナー室、実習室、6の分野、食堂およびコンビニエンスストアを有しています。

躬行館は老朽化した図書館の改築、6年制カリキュラムに対応した講義室・実習室・研究室の整備および食堂混雑の解消を目的として建築いたしました。躬行館の完成により、1年次生から6年次生までの全ての講義・実習を本校地で行うことができるようになり、学生の皆さんにより快適な学習環境を提供できるようになりました。学生の皆さんは躬行館を存分に活用し、より一層薬学の習得に励んでください。

京都薬科大学は、今後も教育・研究内容の充実、施設設備環境の整備に継続して取り組み、医療に貢献できる人材の育成を目指します。その一環として、本年3月から旧図書館棟および6号館を解体し、本校地中央部の緑化事業を開始します。継続して工事が続き、関係者の皆さまには大変なご迷惑をおかけいたしますが、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

※躬行館特集は次号のKPU NEWSに掲載予定です。



躬行館外観



大講義室

躬行館 配置図

